

2025VAM 参加記

広島赤十字・原爆病院 田中慎一

この度、私は第 53 回日本血管外科学会（以下 JSVS）学術総会で「Treatment Outcomes of Bypass and Hybrid Therapy for Femoropopliteal and Infrapopliteal Lesions in Patients with CLTI」と題する演題にて優秀演題賞を頂きました。今回の演題は、九州大学病院と関連病院での多施設共同研究で、九州大学病院ならびにその関連病院の多くの先輩方ならびに後輩の先生方のこれまでの業績を評価していただいたものです。今回はたまたま私が発表させていただく機会を頂きました。まずこの場をお借りしてこれまでご指導頂いた諸先輩方、苦楽を共にしてきた後輩の先生方に感謝申し上げます。今回、副賞として JSVS の費用支援のもと米国血管外科学会 Vascular Annual Meeting 2025（以下 VAM）に参加しました。これは 現福岡県済生会八幡総合病院院長 古森公浩先生のご尽力により始まった制度と伺いました。今回このような貴重な経験の場を頂きましたことを、古森先生ならびにご尽力されました先生方にこの場を借りて深く感謝申し上げます。以下、学会参加概要につきまして報告致します。

VAM は 2025 年 6 月 4 日－7 日にニューオリンズで開催されました。現地会場では東信良先生の distal bypass workshop をはじめとする血管外科教育についてのご発表、駒井宏好先生の本邦における CLTI の現況についてのご発表も拝聴することができ勉強させて頂きました。私は国際セッションにて発表させていただきました。学会ではメイン会場でのディスカッションが TV ショーのような華やかなセットと雰囲気で行われていました。ニューオリンズはジャズ発症の地ということで、学会会場でジャズの生演奏があったり人形を被った人たちが踊っていたりとても賑やかでした。また、地元の食事もおいしく、カキの火鍋焼き、Gumbo(カレーに似たスープ料理)に舌鼓をうちました。また、日本を発つ前に夜は出歩かないように注意を受けていましたが、日本人の先生方と夜の街に繰り出してジャズ生演奏を楽しみました。

今回の渡米で私自身が素直に感じたことを 3 点述べます。

まず、日本人であることで明らかに好待遇を受けたことです。海外渡航すること自体が私事を含めて初めての経験でした。日本人であると言ったら明らかに待遇がよくなりました。これはどこに行っても、空港やホテルや街など公共の場所でも学会等のクローズドな会でも、施設訪問をしたときもそうでした。これまで日本人諸先輩方が医学界だけでなくおそらくビジネスの世界でも、米国に留学やお仕事で行かれた際に規律性、勤勉さ、人間性に対して尊敬され、それが市井の人々まで浸透しその記憶が受けつがれ、それがとっさに名も知れないしがない日本人を前にしたときにさえ表出したのではないかと思います。後輩の日本人としてその恩恵を受けることができ本当にありがたい限りでした。

2 点目は日本の文化が浸透していたことです。レストランに行けば店員さんがアニメのナルトのキャラクターのキーホルダーを喜々として見せてくれたり、血管外科志望の医学

生は村上春樹の小説を読んでいると言っていましたし、オペ室のスタッフは日本食が好きだと言っていました。医学薬学界においても日本発のデバイスや医薬品が海外に受け入れられる余地や可能性を感じました。

最後に、いろんな方がおっしゃっているように、できるだけ若いうちに海外に行っている可能性、選択肢を模索してもいいのかなと思います。例えば、医局より海外留学の話を頂いたら一度真剣に考えてみる、など。

今回の渡米は私の人生において宝物のような時間となりました。この機会を与えていただきました日本血管外科学会の関係者の皆様、そして現地でお世話になりました日本人の先生方に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。最後に、今、当院で日々診療を共にしています血管外科の大峰高広先生に厚くお礼を申し上げます。英語の勉強のアドバイスをしていただき、英語の教材をたくさん買い与えてくださり、応援してくれました。そして快く米国に送り出してくれました。

末筆となりましたが、皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。

